

知得! Tips and Tricks  
初めての夏カワハギに挑戦

つり情報編集部 黒澤尚人

カワハギ釣りは冬の時期に何度か経験した程度だけれど、一年を通してカワハギ船が出ていることは知っていたし、数は釣れないものの釣れば大きいという基礎知識はあったつもりだ。初めての夏カワハギは、とても多くの発見があった。

その中のひとつが、お客さんのカワハギに対する思いやりだ。お腹がパンパンに膨らんだメスがこの日もよく釣れた。メスだから型が小さいということもなく、30センチ近い大型も姿を現したが、お客さんのほとんどがリリースしていた。

船宿からお願いされているものでもなく、自発的にやっていたことに改めて感心させられた。

さて、この日は取材の合間に1時間ほど竿を出させていただいた。皆さんの釣り方を見ていると、釣り方や仕掛けは十人十色ではあるものの、派手な誘いではなくゆっくり

とした誘い方に関しては共通していた。当日の状況をおおむね把握したうえで実際に釣ってみると、エサ取りらしいアタリも少ない。そこで、極力誘いを入れずに底付近でじっくり待っていると、カワハギ特有のたたくようなアタリ。ハリ掛かりもスムーズに20センチ級を釣り上げることができた。

よく観察してみると釣れたのはメス。名残惜しかったけれど、撮影した後は皆さんに做ってすみやかにリリース。

約1時間で釣れたのはこの1枚だけだったけれど、初めての夏カワハギはいい経験だった。もう少し釣りがかったので、今度はプライベートで挑戦するつもりだ。

▶いきなり20センチ級が釣れたが、それっきり



▲さすがの内藤さん、この日唯一の一荷釣りも披露

# 大型ラッシュの季節到来 自己記録を狙うなら今!!

●三浦半島久比里発 ↓下浦沖

つり情報社会長 根岸伸之 Nobuyuki Negishi

産卵期を迎えるカワハギは一年を通して、最も数釣りが難しい時期。それでもカワハギ詣りに勤しむ方はファンというより「好事家」と言ったほうが正しいだろう。

それに比べてくれるのが、三浦半島久比里の船宿群。周年乗合を出船している貴重な

エリアである。

「夏カワハギ」とも言われるこの時期は、産卵を控えて活性も低く、盛期のような派手なアタリを見せることは少ない状態、浅場に広く散らばって釣れることもない。

逆に15センチ以下の放流サイズが少なく、長所。くれば良型、とくに30センチを超える大型が目立つのがこの時期の特長といえる。

小さなアタリを取って掛ける喜びを味わいつつ、自己記録を更新する好期でもあるのが夏カワハギなのである。

編集部の取材要望に、独断と強権を発動して選んだのがカワハギ。たぶん私も好事家の一人なのかもしれない。

5月30日、編集部のニューフェイス黒澤尚人君と連れだって釣行したのは三浦半島久比里の巳之助丸。出船の1時

間前に着くと、すでに最後の乗船者。わずかに空いていた左舷の間に席を取る。

## 好事家は私以外にも

晴天ナギ予報もあるが、このところトップで15枚前後という好釣果もあって、平日にしてはにぎやかな16名の釣り客が集まった。

乗船者の顔ぶれを見ると、やっぱいました、好事家が。周年カワハギ一筋、横浜皮はぎ研究会所属の内藤仁さんである。右舷ミヨシ3番に席を構え、今か今かと出船を待っていた。

7時半に河岸払いとなり、15分ほど走って下浦沖の20メートルダチに到着し、すぐに投入合図が出る。船長に聞けばここは根の深さという。で、本日の作戦が決まった。潮の流れも穏やかで、根と聞けば大好きな宙釣りである。

大型に備えてハゲバリ4.5号、ハリス2.5号6センチの仕掛けで挑む。

軽く投げたの1投目、オモリ着底後カーブフォールで船下まで仕掛けを引き寄せ、すかさず1メートル巻き上げる。左舷ミヨシで船中1枚目の20センチ級が上がったのを見て黒澤君が撮影で駆けつける。何はともあれひと安心だ。

視線を竿先に戻し、底上0.5メートルをユラユラと誘い続けていると、サワサワという穂先に出ないアタリ。ゆっくりと竿を持ち上げていくと、ゴゴゴッときて見事ハリ掛かり。これぞ宙釣り、このアタリがたまらないのである。

ガクンガクンという特有の引きを楽しみながら取り込んだのは22センチのオス。久しぶりのカワハギ釣りだったが、「やっぱこの釣りはおもしろい」と独りごちる私である。続いての2投目、なんと同じ釣り方であっさり2枚目が釣れてしまったのである。

「こりゃ、独り舞台だ、ぶっちぎりの竿頭だ」と浮かれたのが大間違いと後悔するのである。

こは我慢。

それから1時間たっても釣果なしで早々に竿を置く。たぶん「俺に釣らせろ」目線にびびったのかもしれない。昼ごろからは潮が速く根掛かりやオマツリが多くなり、船長は平たんポイントに移動する。

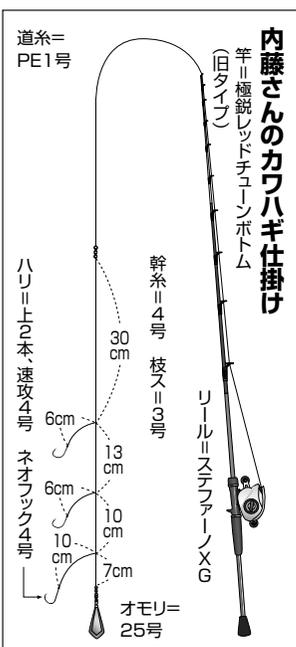
ここでもひたすら宙釣りに固執する私だったが、どうにもアタリがないので、苦手にゼロテン釣法に切り替え、どうにか2枚を追加。

常連さん、内藤さんは変わらぬペースで釣り続ける一方、私は13時以降、納竿までアタリすら出せずに終わる。

14時半に納竿。コンスタントに釣っていた内藤さんが竿頭で18センチを16枚、2番手は左舷トモの常連さんが13枚、スノで3枚、あれほど意気込んだ私は7枚に終わった。



▲背ビレの付け根が糸状に伸びたのがオス



### ●船宿information

三浦半島久比里  
**巳之助丸**  
☎046-841-1089  
(詳細は巻末の情報欄参照)



白井 浩喜船長

▶料金=カワハギ乗合一人9200円、むき身エサ800円  
▶備考=7時半出船。ほかにアジ、カサコ乗合へも



▲内藤さんの仕掛け周り。ハゲバリが好みのような



▶私も初めのうちはよかったが